平成29年度　第１回　社会教育委員の会議　会議録

１　日　　時　　平成29年6月22日（木）14:30～17:00

２　場　　所　　南北海道教育センター　１階　大会議室

３　内　　容

（１）　講演「社会教育委員の会議の果たす役割と位置づけについて」
　　講師　北海道教育庁渡島教育局社会教育指導班　主査　田中　尚史

（２）　副委員長の選任について

（３）　平成２９年度社会教育事業について

（４）　函館マラソンオフィシャル応援団について

（５）　亀田地区統合施設基本設計について

（６）　函館市民会館耐震等改修工事について

４　出席委員　１１名（絹野委員，外崎委員，滝澤委員，佐々木（満）委員，
　　池田委員，佐々木（香）委員，竹内委員，森山委員，
　　相原委員，川口委員，澤田委員）

５　欠席委員　　４名（長谷川委員，佐竹委員，小池委員，菅野委員）

６　事務局出席者　９名（小林生涯学習部長，鶴喰生涯学習部次長，佐賀井施設課長，
　　阿部生涯学習文化課長，池田フルマラソン担当課長，
　　蛭子井文化財課長，斉藤博物館長，佐野施設課主査，
　　円山生涯学習文化課主査，舘澤生涯学習文化課主事）

７　発言要旨

円山生涯学習文化課主査	ただ今から平成２９年度第１回社会教育委員の会議を開会いたします。 （資料の確認） それでは，絹野委員長，よろしくお願いします。
絹野委員長	ただ今紹介いただきました，委員長の絹野でございます。 昨年に引き続き，よろしくお願いいたします。 初めに，委員の交替がありましたので，教育委員会生涯学習部生涯学習文化課長より紹介していただきます。
阿部生涯学習文化課長	（委員紹介）

絹野委員長	続きまして，本日出席しております教育委員会職員を事務局より紹介していただきます。
阿部生涯学習文化課長	（職員紹介）
絹野委員長	本日の会議は，議事に入る前に，北海道教育庁渡島教育局教育支援課社会教育指導班　主査　田中尚史様をお招きして,「社会教育委員の会議の果たす役割と位置づけについて」という演題で，３０分程度ご講演をしていただきますので，全体の終了時間は４時半を予定しております。 それでは，早速，講演に入りたいと思います。田中様，よろしくお願いいたします。
田中主査	（講演）
絹野委員長	田中様，ありがとうございました。 それでは，本日の議事に入らせていただきます。 議事（１）「副委員長の選任」につきましてですが，函館市社会教育委員の会議規則第２条において「会議に委員長及び副委員長それぞれ１名を置き，社会教育委員の互選とする。」と定められておりますが，皆様，いかがいたしますか。 （「委員長一任」の声あり）
絹野委員長	ただ今，委員長一任という声がありましたので，私から推薦させていただきます。 前期から引き続き，北海道教育大学函館校からの推薦を受けて委員に就任されていらっしゃいます，外崎委員に副委員長をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。 （「異議なし」の声あり）
絹野委員長	異議がないようですので，外崎委員には，副委員長席に移動していただき，一言ご挨拶願います。
外崎委員	（あいさつ）
絹野委員長	議事は以上でございます。 それでは，引き続き，報告に移らせていただきます。 報告（１）平成２９年度社会教育事業について，事務局より説明願います。

阿部生涯学習文化課長	今年度第１回目の会議ですので，委員の皆様に今年度の社会教育事業について，生涯学習文化課より順に説明いたします。 途中で一度，質疑応答を入れます。 （生涯学習文化課，スポーツ振興課の順で各課長が資料に基づき説明）
絹野委員長	ありがとうございました。 ここまでの説明に関して，質問等ございますか。
川口委員	函館マラソンについてですが，参加した人に感想を聞いてみたことがあります。その方は，世界のいろいろな大会に参加して，結構成績を収められている方なんですが，その方によると，街の中をいろいろ観光するような感じで走るコースになっているんですが，観光は翌日にできるので，競技に専念したいと言っていましたので，お伝えしたいと思います。 それから，実行委員の中に，実際にいつも参加している方を入れているのかなということも言われていました。
池田フルマラソン担当課長	まず，コースについてですが，ご指摘のようなお話は私もよく伺います。それはおそらく，市街地の中をぐるぐる回るというのが，果たしてマラソンコースとして良いのだろうかと，観光は別の日にするので走ることに専念できればよいというお話だと思うのですが，その一方で，函館マラソンのコースは，日本陸連の公認をいただいていますので，競技性はきちんと担保されていて，その中で多くの方が競技を深め，記録を狙うということでございます。 コースについて，よく，「あのともえ大橋を２回も走るのはとんでもない。」というご意見をいただくのですが，実は去年アンケートをとってみたところ，９３％の方が「工夫を凝らした良いコースだ」と回答しております。だからと言って，それが免罪符になるわけではありませんので，例えば渋滞を招かないようにするとか，市内の交通の問題も含めて，このコースを考えてきたところです。チャンスがあればおっしゃるような形のコースにできればと私も常日頃思っていますが，なかなか難しいところです。 それから，実行委員会にランナーの意見が取り入れられているのか，メンバーとして入っているのかというご指摘なんですが，函館走ろう会のメンバーに，ハーフマラソンの時代から入っていただいておりまして，常日頃ご意見をいただくような形になっております。
佐々木（香）委員	三点についてお聞きしたいと思います。 まず一点目，函館まなびっと広場と家庭教育支援事業について，ここ数年の参加人数の推移はどのようになっているのか，お聞きしたいと思います。

二点目は，学校開放事業について，スポーツのほうも文化のほうも，結構大きな予算額が計上されているのですが，この予算の内容について，もし差し支えなければお聞かせいただきたいと思います。

三点目は，昨年初めてこの会に参加させていただいた時にも質問というか意見を言わせていただいた社会学級のことについてなんですが，以前私は社会学級の設立６０周年の時に会長をさせていただいておりまして，それから１０年経ち，昨年７０周年を迎えた活動なんですが，昨年の私の質問に対して，議事録にもありますが，「生涯学習部としても社会学級は非常に大切なものなので，これからも大切にしていきたい。」というお答えをいただいて，私もちょっと安心しました。しかし，昨年お話ししたように，それまでは担当の先生がいらっしゃったのに，突然，事務局を自分たちで，自主自立でやりなさいと，書類を作るのも全部自分たちでやってくださいということで，大変混乱しまして，新しく会長になられた方も非常に苦労して，事務局の担当員もいない中で，役員の中で多少パソコンをできる方が書類を作るようなことを大変苦労されてこの一年間過ごしていて，さらに，私は参加していなかったのですが，今年の連絡協議会の中で説明された話を聞きますと，規約に記載してある事務局の場所を，今までは教育委員会の生涯学習文化課とあったのを，会長宅に移すほうが良いでしょうという方向で話しが進められていることに対して，会議に参加されている方たちの中から，今までどおり教育委員会に事務局を置く形では無理なのかということで大変意見が出されたと聞いております。

この社会学級というもの自体が，昭和２２年に社会教育法ができた当時から全国的な取り組みとして，家庭教育を推進するために必要だということで作られたもので，その現存する形で残っているのが日本全国で函館市しかない状況です。東京以北では，仙台でこのような形のものはありますが，事務局が教育委員会の中にあって，企画・運営も全て教育委員会の方がされていて，そこに参加したい方がそれぞれの講座に参加するという形をとっているもので，もともと国が求めていた，自分たちで企画・運営して色々な取り組みをする積極的な形としては，日本では函館市しか残っていない状態で，それを去年の質問の時には大切に思っていますとお答えをいただいたので，本当に安心して帰ったんですが，今年のお話を聞くと，どうやらそうではなくて，この流れからいくと，いずれ教育委員会の生涯学習部の皆さんは，社会学級が無くなればよいと思っているのではないかと，もの凄く心配になりました。私も北美原小学校で活動させていただいていますが，社会学級で活動することを生きがいに頑張っている地域の方もたくさんいる中で，なんとかこれからも続けていけるような支援の仕方というものがあると思うのですが，どうやらそうではない流れになってきているのではないかと凄く心配しておりましたので，大変だとは思いますし，予算をこれだけ付けていただいて活動させていただいていることには日頃から感謝をしておりますが，何卒継続できるような形の

支援の仕方をもう少し工夫していただけないかと思っております。
　もともと，校長先生を退職された方が担当で就かれていましたが，その時には，会議の持ち方から書類の作り方から，そういうことから指導していただいた中で，７０年も経ったのでそろそろ自分たちで自立しなさいという流れも十分理解できるのですが，今，学級生が減ってきている中でも続けていきたいという熱意を持った方たちがいらっしゃる以上は，もう少し大切にしていただけないかという想いも込めて，質問ではないのかもしれませんが，よろしくお願いします。

阿部生涯学習文化課長

　順番が前後しますが，まず社会学級についてお答えします。
　昨年も佐々木委員から，社会学級について，今まで市のほうで事務局を持っていましたが，自立をしていただくということを考えまして，社会学級の皆さんにお願いするということでお話ししたと思います。
　その中で，市としても役割を決めて，支援もしていくということを私からお話しさせていただいたと思っています。
　社会学級につきましては，佐々木委員がおっしゃるとおり歴史のあるもので，この地域には必要なものと私も思っておりますので，これからも支援等していきたいと思っています。
　ただ一つだけお話ししたいのは，行政が全てやるのではなくて，やはり役割を明確に分けて，社会学級のほうで動きやすいような形で，社会学級の皆さんにお任せした方がよいものは全てお任せする，我々はその側面から支援するというような形でやっていきたいと思います。
　だからといって，徐々に切り離していくというわけではなくて，お互いに役割をきちんと決めて，これからも同じく支援していきたいと思っておりますので，安心していただきたいと思います。
　具体的な事例につきましては，これから話し合いをしていきたいと思いますので，よろしくお願いします。
　次に，家庭教育支援の関係ですが，これは平成２０年から実施している事業でして，例えば保育園ですとかに，講師を派遣してセミナーを開催してもらう事業で，昨年度の実績としては，６講座実施しております。実施場所は，小学校のＰＴＡの集会や，保育園や幼稚園，子育てサロンのようなところなど，６か所で開催しております。
　内容は，食育の問題や子育て全般，子どもの子育ての心理学などの専門的な講師の方に講演をしていただいて，最後にアンケートもとるのですが，大変参考になったという感想もいただいているところです。
　それから，まなびっと広場についてですが，先程もご説明したとおり，冊子を作って，いろいろな講座を紹介しています。
　まなびっと広場では，講座に参加したら手帳にスタンプを押し，一定数押すと表彰されるシステムになっています。
　昨年の状況は，まず，子どもたちを対象にした「キッズ２０びっと奨励賞」というものがあるんですが，市内で１６５名の子どもたちが

賞を受けております。
　それから，さらにスタンプを押して，１びっと，２びっとと増やしていくんですが，「５０びっと奨励賞」がありまして，１８４名の方々が受賞しています。その上の「１００びっと奨励賞」は，８５名の方が表彰を受けております。
　最後に，「まなびっと博士」というものがありまして，これは９１名の方が受賞され，合計で５２５名の方が奨励賞を受けている状況です。
　学校開放（文化開放）の予算についてですが，平日の夜間や休日に開放していますが，その際に，シルバー人材センターに管理業務を委託しておりまして，予算額のほとんどは管理委託料という形になっております。

池田フルマラソン担当課長

　スポーツ開放につきましては，私のほうからお答えします。
　事業費が，資料のほうで３，６１３千円ということになっていますが，その内訳についてですが，スポーツの場合は「学校開放主事」を置きますので，その方たちに対する謝礼がまずあります。さらには暖房のための燃料費，ちょっとした修繕ですとか，体育用の備品購入費といったものがあります。

絹野委員長

　三点の質問がありましたが，特に社会学級については，安心してくださいということでしたので，一年間楽しみにしながら社会学級の活動を進めていただければと思います。

川口委員

　この間，湯の川のホテルで，私と同じような年代の人と話したんですが，子どもの頃はよく根崎の海岸で，泳いで４０メートルくらい沖に行くと，下から温泉が湧いているところがあり，色々楽しみがありました。
　そういうふうに，努力しながら，危険を察知しながら，自然の中で学ぶことがいっぱいありました。
　海水浴場が入舟のみとなりましたが，我々，南茅部や椴法華など下海岸のほうから行ける場所ではありませんが，例えば，前浜を１か月くらい開放するという形で，もう少し自然の中で，体力も気力も危険も，いろいろ勉強させることが，社会教育のあり方ではないかと思います。
　このままであれば，自然と子どもの人数も減るし，海水浴場は入舟だけという形になってしまうと思うのですが，もう少し子どもの健全な教育のために開放するという姿勢はできないものでしようか。

小林生涯学習部長

　入舟海水浴場の開設の時にも，地元の漁業者の方とも協議をし，漁業権にも十分配慮しながら，監視も付けて，開放している経緯があります。
　また，４地域は，海に面した地域ということで，前浜を開放できれ

ば良いのですが，安全性の確保ですとか，漁業権の問題ですとか，そういったことが生じますので，なかなか恒常的に開放していくことは難しいのかなと思います。
　ただ，私が知っている限りでは，小学校で前浜学習ということで，漁業者の協力もいただきながら，学校を出て前浜で海水浴を楽しんでいるというようなことも聞いております。そういった形で海に親しんでもらうことは，私も必要だと思いますが，そこを正式に海水浴場として開放していくのは，現状ではなかなか難しいというご理解をいただければと思います。

絹野委員長　役所としては，漁業権や安全性の問題からすると，フリーに海水浴場として浜全体を開放するわけにはいかないというお話だったかと思います。

川口委員　例えば，前浜のどこと場所を決めて，ウニなどがいない砂浜で泳がせる方法もありますし，そもそも危ない時は泳ぎません。
　ふと思ったんですが，韓国の高校生が全員亡くなった事件がありましたよね。あれは，言うこと聞いてるんですよ。我々の時代なら，先生の言うこと聞かないで石で叩いて割って逃げましたよね。
　そういうものを見ていると，自然教育をしていないから，あのような事になるのだと感じました。我々の時代としては許せない状況だと思いました。

絹野委員長　役所としては，安全性の問題から監視員を置くという，そういう状況のもとで入舟も開放されている状況ですので，なかなか自由に浜全体を開放するわけにはいかないという，そういうお話を部長からいただいたものと思います。

　よろしいでしょうか。
　それでは，引き続き説明をお願いします。

（文化財課，博物館の順で資料に基づき説明。各教育事務所については，生涯学習文化課長が説明）

絹野委員長　ありがとうございました。
　文化財課と博物館，それから各教育事務所の事業についてお話をいただきました。
　ご質問等ございましたらお願いします。

佐々木（満）委員　関係ないかもしれないのですが，箱館奉行所で，お琴の発表会ですとか，日本舞踊の発表会ですとか，そういうことでお座敷をお借りすることはできるのでしょうか。

蛭子井文化財課長	一般の方にお貸しすることはしておりません。 指定管理者が自分たちの自主事業ということで，集客を目的としまして，奉行の格好をして写真を撮るとか，コーヒーをいれて飲む会ですとか，そういうことはやっておりますが，個人利用的に貸し出すことは，現在しておりません。 そういう形で利用したいということであれば，個別ケースになるかと思いますので，私ども，もしくは指定管理の方と，一度ご相談いただければと思っております。
川口委員	縄文センターについてですが，私も縄文が好きで少しは勉強しているのですが，議員連盟でも，議長の青森県の大島さん，岩手県の鈴木知事，事務局長は北海道８区の前田議員でしたが，７月には国の指定を取れそうだということです。政治力でいくのも結構ですが，心配なのは，地域住民の理解度が相当足りないと思うんです。縄文の関係者と話していても，好きな人達と話していても，これはまずいなと思っています。どんどん進むのは良いのですが，下がついてこないとまずいと思います。 世界遺産になれば，人がたくさん来ますよね。一般の人に聞かれた時にどう対応するか，十分な誇りをもってやれるということが一番だと思うんです。 それが先決なので，前向きに走るのと，それからあまり距離を置かれないように，住民の勉強というか，理解度を高めるようなことをしてほしいと思います。 ひろめ舟祭りによく行くのですが，あそこは良い海の地域で，その状況を見ても，縄文の人たちがここに住んでいたんだなという感じがします。縄文の人たちも海に関わりがあるので，ひろめ舟祭りと縄文がきちんとタイアップしながら説明をしていくという形にしていかなければいけないと思います。ただ縄文祭り，ひろめ舟祭りというだけで終わってしまっているのは惜しいなと思います。あれほど地域のエネルギーのある祭りなので，あれを十二分に活用して，縄文を広めていきたいと思っています。 聞いた話では，中空土偶が発見された当初は，「漬け物石にもならない」と言った人がいたというくらいの認識度なので，それをはっきり踏まえていただいて，地域の人たちに教えてほしいと思います。
相原委員	世界遺産の関連になりますが，実は青森県のほうでは，東奥日報などの報道によると，かなり企業や団体の協賛関係が進んでおりまして，今年こそはという，県を挙げた意気込みでやっているんです。 それに引き替え，対岸の函館はどうなのかと思います。 今回この世界遺産登録の推進，これは教育委員会の担当ではないのかもしれませんが，函館市としてどのような方針でこの７月を迎えよ

うとしているのでしょうか。
　前回も指摘したのですが，その後函館市の全市を挙げての取り組みというのは，どうも今ひとつ感じられないんです。
　青森のほうは，全県を挙げてやっているものですから，もし国内の推薦を得られたにしても，逆に函館市，道南が足を引っ張って，ユネスコの世界遺産登録が見送られるとか，文句がつくとか，そういうことが考えられなくもないのではないかと，非常に危機感を持っていますが，その点はどうでしょうか。

蛭子井文化財課長

　世界遺産登録に向けた取り組みについては，教育委員会の文化財課の方で担当しておりまして，生涯学習部の次長以下で世界文化遺産登録推進室という名前を付けて取り組んでいます。
　青森のほうでの企業，団体の協賛というお話ですが，函館市でも，函館，北斗，七飯の商工会議所が中心となって，道南縄文文化推進協議会という組織が立ち上げられております。
　実際にどういうことをしているかと言いますと，機動力を生かしていただきまして，丸井，ボーニ，それぞれの壁面に，縄文遺跡を世界遺産にということで，大きな懸垂幕を作っていただいております。
　それから，国道２７８号のほうに企業局が持っている土地がありますが，もともと新幹線の広告を立てていたところですが，そこを借りていただいて，大きな看板を付けて，通る車に対してアピールをしていただいています。
　それから，中空土偶の写真が付いた，卓上の小さなのぼりを作製していただいて，各学校を含めてかなりの数配っていただいております。
　それから，もう一つ，財団法人道南歴史文化振興財団，これは南茅部地域にもとからあるＮＰＯ法人と市内の経済団体で設置しているものですが，縄文文化交流センターの指定管理者となっております。その財団のほうでも，去年は谷村志穂さんを呼びまして，縄文に関する講演会を五島軒で開きました。
　我々も，東京の企業の企画で，各地の世界遺産に関して講演活動や芸能活動を呼び込んでタイアップしてやっている企画があるのですが，そこの力をお借りしまして，文科省からも補助金をもらいまして，１月に芸術ホールで，８００人ほど集まりましたけれども，養老孟司さんの講演会，それから縄文とはあまり関連性がないところなんですが，狂言や地元の南茅部の踊りも含めて，郷土芸能ということで，文化財の大切さということで，お話しをいただいたり，講演会をしております。会場でも，縄文遺跡のパネル展示をして，かなりの数の方が見てくださっています。
　そういった活動をしながら，経済界や財団法人とも協力しながら，ＰＲ活動に努めているところなんですが，川口委員の言われるように，実際地元の南茅部に住まれている方に関しては，元から大船遺跡ですとか垣ノ島遺跡ですとか，特化したものだけでなくても，かなりの数

の縄文遺跡がありますので，そこが世界遺産になるからどうなるのかという疑問があるんだろうとは思いますし，たくさん人が来ることによって自分の生活が多少変化してしまうのかと危惧を持たれていることもありますので，昨日から昆布漁が始まっていますが，今後機会をみて地域に入って，南茅部支所とも共同で，地域の方たちがどんなことを望まれているかも含めてお話をしていきたいと思っています。

それから，ひろめ舟祭りですが，今年は雨で様々な行事が中止になりましたが，去年は私も行きました。南茅部地域で縄文の普及，啓発に一生懸命取り組んでおられる北の縄文クラブという団体がありまして，その方たちがちょっとしたブースを出しまして，勾玉の作成体験などをやって，結構子どもたちが喜んでやっていました。

それから，縄文文化交流センターでは，秋口に縄文祭りというものをやっていますが，縄文の格好をして弓矢を投げる体験ですとか，お店なども出しまして，そのように，センターと一体になって行事を開くことで親しみを持ってもらう，知ってもらうということも取り組んでいるところです。

いずれにしても，７月末の国内推薦候補の決まる段階まで，あと１か月くらいしかありませんが，我々としても一生懸命取り組んでいきたいと思っています。

縄文に関するパネル展も，昨年の年度末に市役所１階の市民ホールで，土器や石器なども持ち込んで行いまして，結構な人がご覧になったようです。

地味な活動ではありますが，そういうものを通じて多くの人に見ていただくことが今後に繋がっていくのかなと思っています。

澤田委員

世界遺産登録の件ですが，今の説明では，いろいろなことをやっています，あれもやっています，これもやっていますという感じで，市の取り組みとしては，やっていることが分かるんですが，それに対して市民はどういう盛り上がりを見せていますかと。それを相原委員も川口委員も言っているんです。

市民はさっぱり盛り上がっていないという状態で来月を迎えても，意気込みが感じられないと思うんです。

そのあたり，スケジュールばかりが動いていって，市民が後からついてきていない状況になっているのではないかという気がします。

川口委員

縄文を身近に感じるきっかけとして，福島原発の事故がありましたが，物質文明はもうこの辺でいいのではないかという気持ちがあります。

縄文文化は自然と共生していましたが，現代文明と縄文文化を対比するような，そういう流れを一般市民ができるようにならなければ，絶対に盛り上がりに欠けると思うんです。

そういうことを，もう少し凝縮しながら，分かりやすいようなテー

マを設定しながら，縄文との結びつきをどうとらえていくかについて考えていただきたいと思います。
　この間，東京から知り合いが来て，博物館で能登川さんのコレクションを見て，それから縄文センターに寄って，現代文明と縄文との対比を話してきたんですが，かえって我々よりも東京の人のほうがそういうものを凄く感じますよね。
　そういうものが観光資源になっていくので，新しい方向性で考えていただきたいと思います。

絹野委員長　今，３人の方から，これからの取り組みについて，かなり役所がやっていることはやっているけれど，底辺をどう拡大していくか，そういうことについての工夫もお願いしたいという要望であったか思いますので，よろしくお願いします。

　他にございますか。
　なければ，次にいきたいと思います。
　報告（２）函館マラソンオフィシャル応援団について，事務局よりお願いいたします。

阿部生涯学習文化課長　（オフィシャル応援団について説明）

絹野委員長　昨年の３倍のオフィシャル応援団ということでお話をいただきました。
　特にございませんでしょうか。
　それでは，ここでマラソン担当課長と文化財課長，博物館長は退席されます。ありがとうございました。

　報告（３）に移ります。
　「亀田地区統合施設基本設計」について，説明をお願いします。

佐賀井施設課長　（亀田地区統合施設基本設計について説明）

絹野委員長　ありがとうございました。
　亀田地区統合施設基本設計について，今ご説明がありましたが，質問等ございますか。

　なければ，次へ進めさせていただきます。
報告（４）「函館市民会館耐震等改修工事」について，ご説明願います。

阿部生涯学習文化課長　（函館市民会館耐震等改修工事について説明）

絹野委員長	ありがとうございました。 市民会館の改修工事について色々ご説明がありましたが，何かございますでしょうか。
澤田委員	耐震補強工事によって，今後どれくらいの年数の延命化を図るのでしょうか。 また，設備の改修も行うことになっているんですが，次の建て替えまでは設備の改修は一切行わないということなのか，それから，細かいのですが，大ホールの楽屋が一切手付かずなんですが，何か理由はあるのでしょうか。
阿部生涯学習文化課長	まず，改修した後の年数ですが，構造上は３０年程度使用できるものと想定しており，設備等の耐用年数を考えますと，２０年程度は使用できるものと考えております。 設備の改修については，当然設備というのは，それぞれ部品ですとか消耗品ですとか，交換の必要が出てきたりしますので，２０年間改修しないということにはならないと思います。耐用年数もありますので，改修につきましては，適宜対応してまいりたいと思っております。 楽屋については，今回は耐震改修に伴う工事ですので，例えば楽屋を広げるとか，そういう部分は増築になります。増築になりますと，消防法の問題，建築基準法の問題などありまして，さらに費用がかかります。楽屋については，耐震改修しなくても使えるということですので，このまま使っていきたいと思っております。
澤田委員	２０年以上経つと，それを建て替えるという話になってくるわけですね。
阿部生涯学習文化課長	建て替えるかどうかは，今の段階では判断できないと思います。 ２０年後といいますと，市民会館だけでなく，芸術ホールのあり方というのも当然出てくると思います。 人口減少も進んでいきますので，その時に，市民会館と芸術ホールのあり方を考えていってどうするか，他の施設との関連もありますので，今から２０年後建て替える，次は建て替えるということではありません。
相原委員	予算額についてですが，３５億というとかなりの金額だと思うのですが，だいぶ増えたのでしょうか。建築費の高騰について聞きますが。
阿部生涯学習文化課長	予算額については，昨年当初，教育委員会からお示しした予算額から増えておりません。

佐々木（満）委員　亀田地区統合施設のことなんですが，施設名は，今までどおりこのタイトル「亀田地区統合施設」という名前になるのでしょうか。
こういう長い名前ではなく，もう少し現代に合った名前にしたほうがよろしいのではないかと思います。

佐賀井施設課長　現在は亀田地区統合施設という呼び名で呼んでいるのですが，この名前で施設名が決定するというわけではありません。公の施設になりますので，運営管理も含めた条例を来年度制定することになりますが，その段階で，正式に名前が決定すると考えています。なお，その名前の決定方法については，現在検討しているところです。

川口委員　個人的な意見なんですが，函館では人口減少がどんどん進んでいって，寂しい未来像ばかりですが，ロケーション的には凄く良いし，日本一魅力のある街ということになれば，逆に思い切って日本一のコンサートホールを作って，世界から人を呼ぶようなこともできるのではないかと思います。新幹線も通りましたし，今度空港も民営化されて格安航空が入ってきますよね。そういうドキドキした，気合いの入った前向きなまちづくりをしていないような気がしますが，新しい施設を作ったらいいか，それとも今改修した方が良いのか，議会ではどれくらいの反対，賛成があったのでしょうか。全員一致で決まったんでしょうか。

阿部生涯学習文化課長　市民会館の改修については，昨年９月に予算をお願いした時に，議会からは様々なご意見をいただきました。
全体が賛成ということにはなっておりませんが，了承をいただきましたので，賛成のほうが多かったということです。

絹野委員長　他にございますか。
ないようですので，報告４点は全て終わりまして，事務局から，その他として何かございますか。

阿部生涯学習文化課長　今後の日程ですが，今年度は数回の会議の開催をしたいと思っております。開催時期は未定ですが，決定次第お知らせいたしますので，よろしくお願いします。

川口委員　その他のところで質問しようと思っていたんですが，今お答えいただきましたので，それで結構だと思うのですが，今日，前段の田中さんの講演の最後のほうで，まちづくりをきちんとしなければ駄目だというお話が出ていましたが，それはやはり社会教育の果たす役割が大きいかなと思っています。会議は，初め６回と決められていたので，たくさんやって，どんどん問題を洗い出して，先ほども言いましたが，魅力ある街ナンバーワンだけど幸福度が薄いということが言われまし

たので，それも社会教育のあり方に問題があるのではないかと思っています。魅力ある街と幸福度ナンバーワンの街にするために，会議をたくさん実施していただきたいと思います。

絹野委員長　今日は，皆さんからの要望もありましたので，役所のほうでもいろいろご検討いただいて，より良い方向に進めていただければと思います。

皆さんのご協力を得まして終えることができましたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

以上，平成２９年度第１回函館市社会教育委員の会議の会議録とする。

委員長　絹　野　重　治